令和７年度第１回スポーツ振興事業助成審査委員会議事要旨

１ 日　時　令和７年４月１４日（月）１５：０１～１５：５９
２ 場　所　※Ｗｅｂ会議形式による開催
３ 出席者　〔審査委員〕
藤田委員長、杉田委員長代理（第一部会長）、北村委員長代理（第二部会長）、
遠藤委員、小林委員、齊藤委員、東海林委員、西委員、野々村委員、
樋口委員、平野委員、藤丸委員、松田委員、森岡委員
〔独立行政法人日本スポーツ振興センター〕
芦立理事長、大西理事、本多スポーツ振興事業部長、笠原推進役
佐藤支援企画課長、浅見支援第一課長、吉田支援第二課長、真下主幹、高嶋主幹

４ 議　事

■令和７年度スポーツ振興事業助成金の配分（案）について

資料１及び資料２に基づき、事務局から説明を行った。

＜質疑応答＞　（○：審査委員　△：ＪＳＣ）

○　会計処理の調査の結果によって、決定留保となる団体があると説明を受けたが、どのような要因で留保となり、今回の配分にどのような影響があるのか。
△　決定留保の団体については、現在も引き続き調査を行っている。調査が完了し、会計処理が適正であることが確認でき次第、交付決定となる。決定留保の団体についても今回の配分額には含まれているので、交付決定となれば配分額の変動はないが、交付決定に至らなかった場合は、当該団体へは配分を行わない。
○　具体的にどのような内容の調査をしているか。
△　助成事業者が計上している対象経費に問題ないか等を昨年度から引き続き確認している。
○　調査の対象団体については、どのように決めているのか。
△　全ての団体ではなく助成金の種類によって内部規程で定められた一定割合を抽出し、調査している。

令和７年度スポーツ振興事業助成金の配分（案）について、原案どおり承認された。
なお、今後、助成事業について、修正等が生じた場合は、その取扱いについて委員長及び関係部会長に一任され、取り進めていくことが確認された。

■その他について

資料３に基づき、スポーツ振興事業助成における事業評価の見直しに関する検討状況について、事務局から説明を行った。

＜質疑応答等＞　（○：審査委員　△：ＪＳＣ）

○　事業ごとに成果や評価は異なるので、審査等の負担は増加すると思うが、個別に評価をした方がわかりやすくなると思う。また、個別の評価は誰が行うのか。
○　個別の事業で評価することはよいと思うが、「成果が高い・低い事業を抽出」というのはどのような方法で抽出しようとしているのか。また、指標についてはＪＳＣが提示するのか、事業者が独自の指標を設定するのか。

△　審査の負担は増加するが、助成事業者の負担が増えることがないような制度設計をしていきたい。また、抽出方法については、例えば、まず事務局において達成度が高い事業を事務的に抽出し、その中でよりよい事業を部会や助成審査委員会、もしくは別の場を設けて、委員の皆様からご意見いただきたいと考えている。指標については、共通の指標はＪＳＣが設定し、個別の指標は助成事業者が設定することも検討している。

○　計画値の信頼性、妥当性についてはどのように判断するか。
○　計画値と実績値はどのタイミングで設定し、評価するのか。
△　評価指標の適正性については、非常に難しい部分だと感じている。例えば、毎年度申請を行っている事業であれば、過去の実績から指標の適正性が確認できるが、新規事業は指標が適正であるかの判断が難しい。評価指標の適正性の判断に関しても第三者のお力をお借りできればと思っている。評価のタイミングについては、交付申請時に提出される事業計画書の計画値及び事業の精算時に提出される実績報告書の実績値をもとに実施する。

○　この評価指標が運用されるのはいつからか。
△　早くても１～２年後になると思う。これから更に検討を進め、最終的な制度設計に向けて随時委員の皆様のご意見を伺いながら進めていきたいと考えている。
○　最初から完璧なものはできないと思うので、ある程度の方向性が固まったら、運用しながら修正していく必要もあると思う。

最後に、今後の日程について説明を行った。

閉会

以上